

<テーマ>本時の問題と既習事項との違いを捉えさせながら、自ら課題設定をしていく取組

(登米市立佐沼小学校)

【3年「はしたの大きさの表し方を考えよう～分数を使って」】

### ○問題場面を把握させるための具体的な取組

- ・生活場面を想起させるために本時の問題場面は、遠足に行くためにパックと瓶に残っていたジュースを水筒に入れて持ち運ばなければならないことを伝え、問題を提示する。
- ・ノートに書かせた問題文の、「分かっていること」と、「求めていること」にアンダーラインを引かせる。
- ・既習事項を想起させ、本時の問題について問い掛けながら分数の足し算であることを確認する。
- \* T:「これまでの問題とどこが違いますか。」 C:「この前は、小数だったけれど、今日は分数の問題だ。」「小数ならできるのに。」「簡単だ。」
- ・「合わせて」という言葉だけで、加法の問題になると判断しないように、何をどうする問題であるかをイメージさせるようにする。
- \* T:「分数と分数を合わせるには、どうすればいいかな。」 C:「分母も分子も足せばいいのかな。」「小数の足し算は、0.1をもとにしたけれど、分数も何かをもとにすればできるのかな。」
- ・児童の発言から本時の課題意識をもたせる。
- \* T:「今日の学習課題は何かな。」 C:「分数で計算すること。」「足し算で計算すること。」「分数のたし算の計算をするにはどうすればいいのか。」 T:「みなさんの今日の学習課題が見つかりましたね。」



### <取組のポイント>

- 生活場面と関連付けることで、必要感をもたせたり意欲を高めたりする。
- 既習事項を想起させ、本時の問題を比較させることで、何が学習課題となるのかを考えさせる。
- 「小数の足し算は、0.1をもとにした」を意識させるために、「登米っ子学習課題（レディネス学習）」や「学習コーナーへの掲示」の工夫を行い、児童自身で課題解決の見通しがもてるようにする。

① (金) ジュースがパックに  $\frac{3}{10}$ L、びんに  $\frac{2}{10}$ L入っています。あわせて何Lありますか。

式  $\frac{3}{10} + \frac{2}{10}$

② 分数のたし算の計算の仕方を考えよう。

③  $\frac{3}{10} = 0.3$   $\frac{2}{10} = 0.2$   
 $0.3 + 0.2 = 0.5$   
 $0.5 = \frac{5}{10}$

④  $\frac{3}{10} + \frac{2}{10} = \frac{5}{10}$   
 $\frac{1}{10}$ が3分  $\frac{2}{10}$ が2分  
 $3 + 2 = 5$  だから  $\frac{5}{10}$

⑤ もとになる分数の何に分かを考えて計算する。

⑥  $\frac{3}{4} + \frac{1}{4} = \frac{3}{4}$  ( $\frac{1}{4}$ の2分と1分)

⑦  $\frac{5}{7} + \frac{2}{7} = \frac{7}{7} = 1$  ( $\frac{1}{7}$ の5分と2分)

もとになる分数がちがう